

栃木県結核・感染症発生動向調査情報(サーベイランス)







令和6(2024)年6月(週報第 23 週～第 26 週(6/3～6/30))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 [6月は4週間、5月は5週間、前年同期は5週間での比較となります。]

(1) 定点把握疾病情報

ア. 定点把握疾病のうち、週報疾病(インフルエンザ/COVID-19、小児科、眼科、基幹定点における対象疾病)は 4,088 件(定点あたり 19.94 件/週)でした。5月は 3,408 件(定点あたり 12.98 件/週)でした。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。

疾病名	報告数	前月との比較(週あたり比)	前年同期との比較(週あたり比)
手足口病	1,240 件 (週あたり平均 310.00 件)	 (6.10 倍) 前月は 256 件 (週あたり平均 51.20 件)	 (9.87 倍) 前年同月は 157 件 (週あたり平均 31.40 件)
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	1,102 件 (週あたり平均 275.50 件)	 (1.22 倍) 前月は 1,134 件 (週あたり平均 226.80 件)	 (0.91 倍) 前年同月は 1,510 件 (週あたり平均 302.00 件)
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	724 件 (週あたり平均 181.00 件)	 (0.91 倍) 前月は 1,013 件 (週あたり平均 202.60 件)	 (2.52 倍) 前年同月は 359 件 (週あたり平均 71.80 件)

- ① 手足口病は、前月に比べ報告数が 6.10 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 9.87 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的にも、過去 5 年間の同時期と比較して、かなり高い水準で推移しています。
- ② 新型コロナウイルス感染症は、前月に比べ報告数が 1.22 倍とやや高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.91 倍とほぼ同様の水準で推移しています。
- ③ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前月に比べ報告数が 0.91 倍とほぼ同様の水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 2.52 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的にも、過去 5 年間の同時期と比較して、大幅に高い水準で推移しています。

(2) 全数(1～5 類)把握疾病情報

ア. 1 類、2 類、3 類疾病及び新型インフルエンザ等感染症(全国)

結核 1,167 件(5月 1,459 件)、細菌性赤痢 2 件(5月 1 件)、腸管出血性大腸菌感染症 292 件(5月 255 件)、腸チフス 5 件(5月 4 件)の報告がありました。

イ. 4 類・5 類(上位 6 疾病)(全国)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	1,055	1,367
2	レジオネラ症	192	202
3	侵襲性肺炎球菌感染症	186	338
4	百日咳	159	127
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	156	196
6	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	146	194

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 38 件)(5月 58 件)

結核 10 件、腸管出血性大腸菌感染症 1 件、レジオネラ症 7 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件、後天性免疫不全症候群 5 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件、水痘(入院例) 1 件、梅毒 10 件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

2 疾病の予防解説（咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病）

夏季に小児を中心に流行する感染症について取り上げます。

特に手足口病については、県内のほとんどの地域で警報が発令されるなど、大きな流行が見られています。

これらの感染症は、飛沫感染・接触感染・糞口感染によって広がるため、手洗いなどの基本的な感染対策を心がけることが大切です。ただし、いずれの感染症も、アルコール消毒が効きにくく、症状がおさまった後も約1ヶ月にわたって便の中にウイルスが排泄されことから注意が必要です。

家庭、保育所、学校等においても予防対策を心がけ、症状があるときは早めに医療機関を受診しましょう。

疾病名	咽頭結膜熱	ヘルパンギーナ	手足口病
原因と潜伏期間	アデノウイルス 5～7日間	エンテロウイルス属のウイルス (コクサッキーウイルス A 群など) 2～4 日間	エンテロウイルス属のウイルス (コクサッキーウイルス A 群、エンテロウイルス 71 など) 3～5 日間
症状	発熱、のどの痛み、結膜炎(目の充血や痛み等)といった症状が 3～5 日間続きます。 乳幼児、基礎疾患がある方、高齢者では重症化することがあります。	突然の発熱(2～4日続く)に続いて、のどの痛みが現れます。口の中に小さな水ぶくれができ、やがてただれて痛みをとまいません。 口の中の痛みが強いため、水分が摂れず脱水になることがあります。 また、発熱時に熱性けいれんを起こしたり、ごくまれに髄膜炎や心筋炎などを合併することもあります。	口の中、手のひら、足の裏や甲などに 2～3 mmの水ぶくれを伴う発疹が出ます。 発熱は感染者の約 3 分の 1 にみられますが、38℃以下のことがほとんどです。 通常は3～7日間で症状は治まりますが、まれに髄膜炎や脳炎などの中枢神経系の合併症を引き起こすこともあります。
予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ○流水・石鹸による手洗い、うがい ※アルコール消毒は効きにくいいため注意 ○感染者との接触回避 タオル・ハンカチの貸し借りなども避けましょう。 ○排泄物の適切な処理 症状が消失した後も、約1ヶ月にわたって便の中にウイルスが排泄されます。トイレ使用時やおむつ交換の際には排泄物を適切に処理し、その後しっかり手を洗いましょう。 		

(疾病の予防解説 参考) 国立感染症研究所 ホームページ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/adenopfc.html>
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/herpangina.html>
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ta/hfmd.html>
 厚生労働省 ホームページ https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>
 こども家庭庁 ホームページ <https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/kansensho-guideline>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、6月に県内で警報および注意報が発令された感染症は次のとおりです。

	第 23 週 (6/3～6/9)	第 24 週 (6/10～6/16)	第 25 週 (6/17～6/23)	第 26 週 (6/24～6/30)
手足口病	【警報】安足	【警報】 県西・県東・安足	【警報】 宇都宮・県西・県東・ 県南・安足・県全体	【警報】 宇都宮・県西・県東・ 県南・安足・県全体
伝染性紅斑		【警報】安足	【警報】安足	【警報】安足

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき(およそ上位1%以内)に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。